

科目名 クラス 講義区分
国際経済論Ⅱ <秋>
【教員氏名】 モグベル ザファル 研究室:聖アンデレ館 10 階 1010 号室 メールアドレス:moghbel@andrew.ac.jp
【授業形態】 講義
【講義・演習概要】 現在は「グローバル化の時代」と言われていますが、グローバルな環境では「ヒト・モノ・カネ・技術・情報」が国境にほとんどさまたげられることなく双方向に移動しています。この講義では、グローバルな双方向の動きの中核をなす「モノの移動」(つまり、貿易)に焦点を置きます。あつかうテーマとしては、貿易の歴史、日本の貿易の現状分析、貿易実務、貿易理論の基礎などです。 この講義に登場する貿易の現状分析と理論体系は過去 250 年にわたり次のような問題を提起しつづけてきました。そもそも、貿易はどのような条件のもとに起こるのか、貿易の方向はどのようにして決まるのか。貿易をもたらす利益はどのようにして分配されるのか。自由な貿易はなぜ望ましいのか。そして、関税の導入などの貿易政策の実施は国内および国際社会にどのような影響をもたらすのか。これらの課題を、現状分析と理論の観点から分りやすく解説します。
【学習目標】 国際経済論・Ⅱ の下記のテーマについて学び理解することを目指す: (1) 貿易理論 (2) 貿易政策
【講義計画】 第 1 回:貿易理論展望と貿易の「錬金術」 第 2 回:自由貿易 vs 保護主義: その歴史と現状 第 3 回:重商主義と絶対優位 第 4 回:特化と分業の限界 第 5 回:比較生産費説 (1)リカード・モデルの概要 第 6 回:比較生産費説 (2)比較優位と比較劣位 第 7 回:機会費用と生産可能性フロンティア 第 8 回:オプファー・カーブと交易条件 第 9 回:ヘクシャ・オーリン理論 (1)集約度と要素賦存比率 第 10 回:ヘクシャ・オーリン理論 (2)要素価格均等化 第 11 回:日本の関税制度 第 12 回:関税効果 (1)小国による関税と消費者余剰 第 13 回:関税効果 (2)大国による関税と最適関税 第 14 回:地域統合 第 15 回:まとめ
【成績評価の方法】 試験評価:90% レポート:% 出席:10% 試験:90% レポート:% 授業への積極的な参加:10% 授業への積極的な参加の評価については、授業中に行う数回の小テストの結果によってきまる。
【使用テキスト】
【参考文献】 澤田康幸著、「国際経済学」(新世社) クルーグマン・オブズフェルド著、「国際経済学:(上)貿易編」(丸善出版) ほとんど毎回資料を配布するので、配布資料の責任ある管理を各人に期待する。
【準備学習の指示(事前学習 30 時間、事後学習 30 時間)】 ミクロ・マクロ経済学の基礎を学習しておくこと。配布資料を正しく管理すること(資料の再配布はしません)。
【その他備考(担当教員用)】
【備考(管理者用)】